

令和5年度 上尾市立西小学校 学校評価書

★自己評価の評価基準 A：できている B：どちらかと言えばできている C：どちらかと言えばできていない D：できていない

★学校関係者評価の評価基準 ☆自己評価と同じ評価の場合 → 自己評価は妥当であると判断 ☆自己評価と異なる評価の場合 → 学校関係者評価委員会としての見方を示す

領域	自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価基準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
I 教育目標の具現化・円滑な学校運営	1	<p>■西小は、学校教育目標（素直で明るくかしこい西小っ子の育成）や目指す学校像（児童が夢をもち感動に出会える学校、安全・安心に配慮されきれいな学校、保護者・地域に信頼される学校）の具現化に向かって、学校（学年・学級）運営や学習指導、その他の教育活動の工夫改善に取り組んでいる。</p>	<p>◆安易な従前主義を排し、小さなことでも課題解決と改善を図るための検討や見直し、工夫に、熱意・誠意・創意をもって、真摯に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策を考慮の上、ポストコロナにおける教育活動の進化 ・学校における働き方改革の推進を踏まえた上での価値ある取組の精選、実施 	B	<p>○ポストコロナにおける教育活動の進化のため、各分掌主任が中心となり、諸行事・諸活動の見直し・改善に取り組むことができた。</p> <p>○生徒指導・教育相談に関わる課題解決のため、複数教員の協力体制による指導に、適宜取り組むことができた。</p>	B	<p>・コロナ禍からポストコロナへと移行し、学校の行事や活動も大きく変わってきた。教師の働き方も十分に考慮しながら、子供たちがのびのびとした学校生活を送れるようにご指導願いたい。</p> <p>・学校は、子供たちの良いところを認め、声掛けをしている。</p>
	2	<p>■西小は、教職員それぞれが能力を発揮し各分掌（役割）や各学年が連携協力して質の高い学校づくりを目指すために行動している。</p>	<p>◆教職員それぞれがチームワーク行動を発揮して、組織力の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア段階に応じたチームワーク行動の重点の実践 ・毎日のグループウェアでの指示伝達・連絡事項の確認、情報共有、共通行動 ・一部教科担任制の実施や深い学びを追究する教材研究、制作教材の共有 ・いじめ、問題行動へのチームでの対応 	B	<p>◆学校における働き方改革の推進を踏まえたうえでの価値ある取組の精選、実施について今後も検討していく。</p> <p>◆児童の自己有用感のさらなる醸成のため、どの児童もよい点が認められ、ほめられる教育環境を教員が意識して創出していく必要がある。</p>	B	
	3	<p>■西小は、教職員が児童のよい点を認め、ほめるとともに、いけないことは毅然と叱り、一人一人を伸ばすことを念頭に教育にあたっている。</p>	<p>◆教職員が連携して、児童一人一人のよい点を見つけ、ほめて伸ばす教育に取り組む他自己有用感の醸成と生徒指導・教育相談を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任と教科担任、養護教諭の連携 ・複数教員の協力体制による指導の実施 ・学級活動における称賛場面の設定 	B		B	

領域	自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
II 学習指導・学力向上	4	<p>■西小は、教職員研修を積極的に推進し、教職員の資質を高め、指導力及び業務遂行力の向上を図っている。</p>	<p>◆市委嘱研究準備期間の取組を推進するとともに現職職員研修の充実に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究及び研究協議の実施 ・日々の業務に必要な研修の実施 ・グループウェアの記事をとおした自己研鑽 ・外部講師を招聘した研修の実施 	B	<p>○体験的な活動をはじめ、学習過程の工夫、ICTの活用により、児童の学習への関心や理解は高まってきている。</p> <p>○読書活動の充実のため、学校応援団と連携した読み聞かせ活動を再開できたことや読書への関心を高めるイベント等を行って、図書貸出冊数が昨年度の実績を上回ってきたことは、今年度の成果といえる。</p>	B	<p>・今後も、ICT端末等を使用して、プログラミング教育を実践していただきたい。</p> <p>・ALTと歌を歌ったり、英語を使ったパターン化した会話で楽しそうに活動をしていた。</p> <p>・英語教育について、職員の自己評価が厳しいように感じる。目標と結果の判断基準が、保護者のとらえ方と相違があるのでは。</p> <p>・図書委員の児童が作った「読書福袋」のような、子供がわくわくできるような企画を考えて、図書館に足を運ぶ子供が増えると良いと思う。</p>
	5	<p>■西小は、教育課程や指導方法を工夫改善し、児童の主体的に学習に取り組む態度を高め、学力の定着に努めている。</p>	<p>◆創意工夫を生かした教育指導の実施、主体的・対話的で深い学びに通じる実践、個別最適な学び・協働的な学び、基礎学力、学ぶための5つの力の育成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プランの策定と実行 ・ユニバーサルデザインへの配慮 ・家庭学習習慣、非認知能力の育成 ・自己有用感を得られる場づくり ・認めてほめて伸ばす教育の実践 	B	<p>◆ICT端末の日常的活用を実現するために、さらに授業における効果的な活用力を向上させるとともに、使用ルールの徹底を図り、家庭学習での利用を高める必要がある。</p>	B	
	6	<p>■西小は、コンピュータを活用する授業を推進し、充実させている。</p>	<p>◆「あげお 学びのイノベーション推進プラン」に基づくICT端末の日常的活用を具体化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育の着実な実践 ・「chromebook」の校外外での活用 ・「Google Workspace」「まなびポケット」の利用 ・情報モラル教育の充実 	B	<p>◆英語でも楽しくコミュニケーションを図れる児童の育成を目指し、さらなる外国語（英語活動、外国語活動）の授業力向上研修に取り組んでいく。</p> <p>◆ICT端末の活用、外国語授業の進行、読書活動の推進について、胸をはって尽力しているといえるところまで教員の意識を高める必要がある。</p>	B	
	7	<p>■西小は、英語でも、楽しくコミュニケーションを図れる児童が育つように、外国語教育を充実させている。</p>	<p>◆全担任が、ALTとのコミュニケーションを図り、レッスンプランを計画し、授業を進行できるように実践を積む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTとのコミュニケーションや連携 ・担任が主体となった授業の構成 ・レッスンプランに基づく授業の展開 ・ALTと児童のふれあいの場づくり 	B		B	
	8	<p>■西小は、読書に親しめる児童が育つように読書活動を推進し、充実させている。</p>	<p>◆学校図書館を活用する読書活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ ・学校図書館の環境整備 ・図書に関わるイベントの実施と貸出の促進 ・週末読書の推奨 ・アピースマイル学校図書館支援員、学校応援団との連携 	B		B	

領域	自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
Ⅲ 生徒指導・心を育む教育	9	<p>■西小は、しっかりあいさつができる児童が育つように指導を充実させている。</p>	<p>◆職員が率先垂範するとともに、校長からの合言葉「5つのしっかり」、3内容6項目12の規律ある態度達成目標を意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の学級指導 校長講話、朝会等での指導 保護者への啓発 児童が主体となった活動 	A	<p>○児童が主体となった朝のあいさつ運動を日常的に実施するなど、しっかりあいさつができる児童の育成に係る取組は充実してきている。</p> <p>◆言葉遣いについては、教員自身が率先垂範していく必要がある。</p>	A	<p>・子供たちが自主的に考え、あいさつ活動に取り組んでいることは素晴らしい。</p> <p>・何気なく発してしまった一言で、傷つく人もいるということを自覚し、丁寧な言葉遣いを心掛けて、楽しい学校生活を送れるように、教師も子供たちも、そして保護者も気をつける必要がある。</p>
	10	<p>■西小は、正しい言葉をつかう心が育つように指導を充実させている。</p>	<p>◆場をわきまえたり、呼び捨てなど心を刺すような言い方ではなく、おだやかな、優しい言葉遣いで学習や生活ができるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常指導 授業での実践 道徳科 学級指導 ほめる教育の推進 公的な場では「さん」づけを徹底 	B	<p>◆地域の方へのあいさつを含め児童自ら進んであいさつができるように育成する必要がある。</p> <p>◆無言清掃へのチャレンジについて、その意義を指導し、集中取組期間を設定するなどして、児童に意識づける必要がある。</p>	B	<p>・いじめ・不登校については、いつの時代にもある問題だが、陰湿ないじめを受けた児童は、その後の人生に影響が出ると考える。そのため、きめ細やかな対応が望まれる。</p>
	11	<p>■西小は、きれいな学校にする心が育つように指導を充実させている。</p>	<p>◆集中して、清掃や美化活動に取り組めるように清掃時間の指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常の巡回指導 振り返りの実施 師弟同行 放送による啓発 無言清掃へのチャレンジ 	B	<p>◆新規の長期欠席児童を出さないようにするために、家庭への啓発を図りながら、誰一人取り残すことのない、居場所のある温かい学級づくりに取り組むとともに、長期欠席児童の学力保障のため、ICT端末のさらなる活用を図る必要がある。</p>	B	
	12	<p>■西小は、新規の長期欠席児童を出さないようにするための対応に、取り組んでいる。</p>	<p>◆誰一人取り残すことのない、居場所のある温かい学級づくりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ、不登校対策支援チームでの対応 欠席時の適切な対応 特別支援教育的な配慮 S C、さわやか相談室相談員や関係機関との相談、連携 自己有用感の醸成 	B		B	

領域	自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
IV 健康・安全・体力向上	13	<p>■西小は、保健、歯科保健、体づくりなどの健康に関する教育を充実させている。</p>	<p>◆感染症の防止、むし歯予防、体力向上に関わる児童の意識とスキルを高められるよう指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健学習 ・歯みがきタイムの実施 ・学校保健委員会の開催 ・学校医等との連携 ・体育朝会、体育授業の工夫 	B	<p>○年度当初の各種研修（心肺蘇生、AED、アレルギー対応）の実施をはじめ、性に関する講演会や目の健康に関する研修会をあらたに行うことができた。</p> <p>○児童の健康状態に留意しながら、3分間走をはじめ、ポストコロナにおける朝の運動の充実に取り組むことができた。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業日に配布される「歯みがきカレンダー」は、低学年のみでよい。ある程度の年齢の子供たちは、歯みがきを嫌がることはないと思われる。 ・子供たちは、車が来ることを声掛けすると、それを意識して進んで行動できている。 ・防災については、「災害はいつ来るかわからない。」を考慮し、事前の対応が重要である。特に、実践しておくことが望ましく、防災士協議会等の防災教室を受講することも考えられる。
	14	<p>■西小は、生活安全・交通安全・災害安全に係る取組を充実させている。</p>	<p>◆けがや交通事故の防止、防災に関わる児童の意識とスキルを高め指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全学習 ・安全点検 ・通学路点検 ・避難訓練、防災訓練、消火訓練 ・不審者侵入への対応 ・心肺蘇生法体験学習 ・交通安全教室 	B	<p>◆「自分の命は自分で守る」意識の醸成を目指し、シェイクアウト訓練の導入など避難訓練、防災訓練の充実に取り組んでいるが、さらに実施時期や、内容について見直していく必要がある。</p>	B	
	15	<p>■西小は、食に関する指導を充実させ、食物アレルギーによる事故防止にも丁寧に対応している。</p>	<p>◆バランスのとれた食事の大切さを理解させ実践できるようにする指導を充実するとともに、食物アレルギーによる事故防止の取組を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応マニュアルの実践 ・アレルギー対応児童の保護者面談 ・家庭科、食育に係る指導の充実 ・早寝 早起き 朝ご飯の啓発 ・ホームページでの給食情報の提供 	B	<p>◆必要な教育活動を実施しているが、もっと保護者に発信・広報・公開し、学校での取組を保護にも知っていただく必要がある。</p>	B	

領域	自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自評 己価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者 評 価	学校関係者評価委員の意見・提言	
V 教育環境の整備	16	<p>■西小は、安全・衛生・美化の観点から施設や校舎内外を整頓し、整備を行っている。</p>	<p>◆児童が安心して学べる安全で清潔で潤いのある教育環境の点検と整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月例安全点検及び臨時点検、点検結果への対応 ・小破修繕の実施 ・花壇の整備 ・市教育委員会と学校応援団、保護者との連携 	B	<p>○校舎をはじめ施設・設備は老朽化が進んでいるが、優先順位をつけ、予算を有効活用して、整備・修繕に取り組んでいる。</p> <p>○潤いや学びのある教育環境をつくるため、掲示板の掲示物の更新に工夫しながら取り組んでいる。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ学校に行っても、きれいで、ゴミもなく気持ちが良い。 ・危険な個所も見当たらず、安全面に気を遣っているのがわかる。 ・校舎の老朽化による怪我などを避けるための整備・修繕には、PTAの協力が必要だと思う。費用の面でも相談していただきたい。
	17	<p>■西小は、教室や廊下などに適切な掲示を行い、教育環境を整備している。</p>	<p>◆季節や行事、学習内容・指導内容に合わせた作品の展示や掲示物の作成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彩りや構成の考慮 ・あるべき所に必要な掲示 ・ユニバーサルデザインの考慮 ・児童作品の適切な取り扱い 	B	<p>◆予算を必要とする修繕に、教育委員会と連携するとともに、学校応援団の協力を得た整備にも取り組んでいく必要がある。</p>	B	
領域	自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自評 己価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者 評 価	学校関係者評価委員の意見・提言	
VI 保護者・地域・関係機関との連携	18	<p>■西小は、学校の方針や取組、児童の様子などが伝わるように、積極的に保護者や地域に情報を提供している。</p>	<p>◆学校の方針や取組、教育活動の様子などが伝わるようにホームページや便り、学校配信メール（さくら連絡網）等とおして、保護者や地域へ情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新 ・学校便りの充実 ・学校配信メールの活用 	B	<p>○学校だよりや学校配信メール（さくら連絡網）等とおして、昨年度よりも積極的に情報を発信することができている。</p> <p>○小中一貫教育の実践として、中学校の定期考査にあわせた「家庭学習強化週間」を実施できたことは、今年度の成果といえる。次年度も継続していく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だよりや学校だよりが、学校配信メール（さくら連絡網）で見られるのはとても便利である。ペーパーレスにもなり、とてもよかった。 ・中学校との交流があると、進学に伴う不安が軽減すると思うので、とてもよい取組だと思う。 ・コミュニティースクールについては、職員・保護者ともパーセントが低い、活動内容の周知不足が原因と考える。
	19	<p>■西小は、コミュニティー・スクールとして学校応援団（PTA・保護者や地域住民関係団体等）の協力を生かして、学校運営や教育活動を充実させている。</p>	<p>◆保護者・地域の協力を仰ぎながら、児童の登下校の安全確保や学習活動の充実、教育環境の整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での熟議 ・PTA（おやじの会含む）、学校応援団等との連携 	B	<p>◆コミュニティースクール、学校応援団、関係諸機関との連携に関する活動を充実させるとともに、広報を一層活発にする必要がある。</p>	B	
	20	<p>■西小は、幼稚園及び保育所（園）並びに中学校、地域との連携を図る教育活動を推進している。</p>	<p>◆幼保小連携、小中一貫教育の推進など、関係学校等と一体となった教育活動の推進に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒との交流 ・小中教職員間の交流 ・中学校の定期考査にあわせた家庭学習強化週間の実施 	B		B	